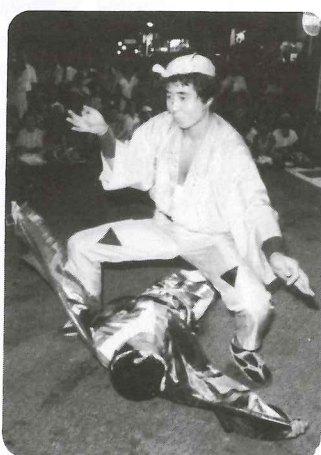


連 紹 介

高円寺を鮮やかに彩る 「連」の登場!

高円寺阿波おどり連協会所属の17連を先頭に、第29回(昭和60年)に参加した銀行連、地元連、外部連が繰り出します。

各連の皆様が、踊り出す手にペンを持ち、それぞれの持ち味をいかしての自己紹介。さて、いかがになりますやら!

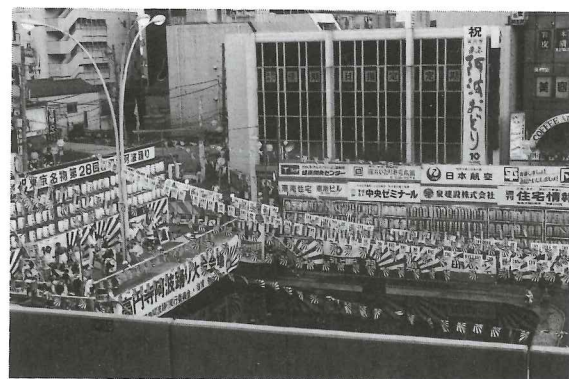


連長 森田昇榮
創立 昭和四十一年八月三十一日
連員数 百三十名
住所 杉並区高円寺南四一六一二
電話 三一一四七〇

葵新連

清潔、純情、愛される連

葵新連は素直な連、清潔で純情な連、好まれ愛される連、そして心を謙虚に持つ事にもなっています。上手、下手ではないのです。けれども、踊りは自負するものがあります。多くは申しません。本番をご覧ください。



本部席(左から)小沢会長、松田杉並区長、鈴木都知事、根津名誉会長



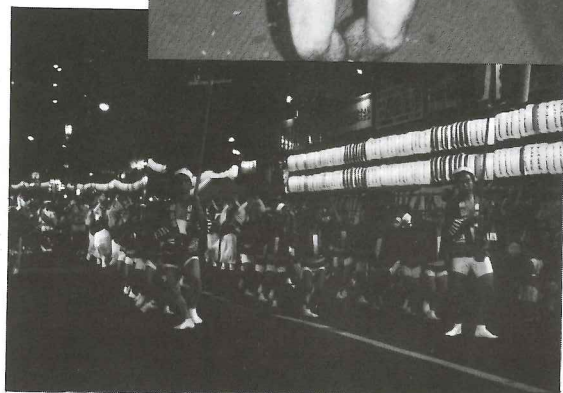
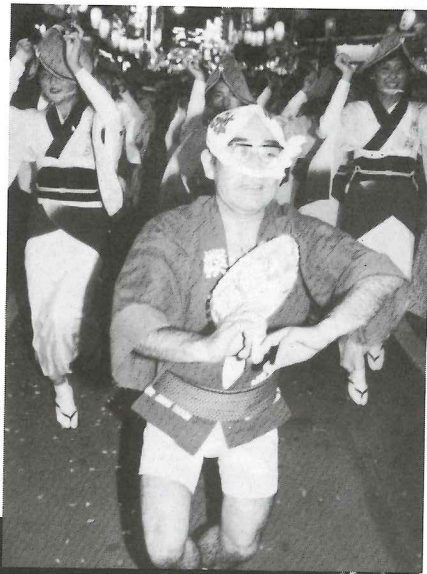
一緒に踊る(左から)藤原都議、鈴木都知事、小沢会長、草柳氏、増田都議



ハワイにて(右から)草柳勝治、斉藤信雄、吉田善明、渡辺一郎、中島安雄、鈴木勇一、小俣区民部長の各氏

飛鳥連

連長 関根敏邦
 創立 昭和四十五年十月
 連員数 百十七名
 住所 杉並区高円寺南四―二五―二
 電話 三二一―三〇〇九



自由で美しい踊りを目指して
 飛鳥とは、我が国創成期「飛鳥の京明日香」の枕言葉の飛鳥「あすか」から、日本人の琴線を大切にという意を込めて明日に香れと名付けました。
 徳島娘茶平の姉妹連としていつも一生懸命、自由で美しい踊りを目指し、結成以来

精進を重ねて来ました。踊りによって無窮の空間に自己を描き、踊りとの対話により自らの内面を見詰め、豊かな人間性の形成を目標としています。
 高円寺阿波踊り第一期生の幹部が高円寺の心を語り、次代を担う若手が未来に夢を馳せる、飛鳥連はそんな阿波踊り大好き人間の集りです。

連紹介

いろは連

連長 上村明男
 創立 昭和四十八年三月一日
 連員数 九十名
 住所 杉並区高円寺北二―八―三
 電話 三三七―六一三五



地球で踊るいろは連
 創立メンバーは、昭和四十二年より徳島へ通い正調阿波踊りを追求し続け、四十八年にいろは連が誕生しました。結成後、徳島阿波連と姉妹連となり御指導よろしく、今日のいろは連の基礎を築きました。
 女は品よく男は豪快に、見る人との心のふれあいを大切に奥深い踊りに努力しています。都内近県はもとより、サンフランシスコ・ロスアンゼルス・ホノルル・ハンブルグ・パリ・ニースの各都市でも大好評を博してきました。

江戸浮連

連長 河原廣―上原昭弘―中屋国臣―
 (中略) 新井健、総連長・小沢淳男
 創立 昭和四十六年
 連員数 百二十名
 住所 杉並区高円寺南三―五八―二七
 電話 三二一―八〇六一



Gaijin-San Go Dancing in

踊りの原点を多くの人に
 江戸浮連は、高円寺阿波踊り発足当時の「うずまき連」の伝統を引く歴史のある連です。歴代の連長は三十年前、高円寺阿波踊りの創立に直接携わり、また顔を白く塗り、踊りにおはやしに活躍しました。当時は商店街の子弟、従業員で組織していた連も、昭和四十六年「江戸浮連」発足と同時に一般の踊り子の募集を始めました。
 踊りたい人は誰でも歓迎し、その数も年々増加しています。阿波踊りの原点「同じ阿呆なら踊らにゃ損々」の精神を多くの人たちに味わってもらいたいと思います。

連紹介

江戸子連

連長 佐藤恒夫―早川弘一―草柳忠弘―
 杉谷宗彦
 創立 昭和四十六年八月
 連員数 六十名
 住所 杉並区高円寺北二―一六―三
 電話 三三七―四一三三



粋でサッパリ江戸っ子気質

高円寺銀座商店会で組織した「高円寺銀座連」が発展的解散をして、昭和四十六年に「江戸っ子連」が誕生した。粋でサッパリ、義理人情に厚い江戸っ子の良さを身上に「心と汗」の正調阿波おどりを目指している。徳島・阿呆連の指導をうけ、提灯をあやつるダイナミックな武士おどりは当連ならではのもの。
 昭和五十三年最優秀賞を受賞、昭和五十五年連結成十周年の記念公演を開催、この年第一回の都知事杯を獲得する。ユカタにあしらった紋は東京都のマーク「花」のサクラと「木」のイチヨウ。

菊水連

連長 山崎清一熊木一郎—中村哲男
 創立 昭和四十三年八月
 連員数 百名
 住所 杉並区高円寺南二—二〇—六
 電話 三二四—二二二一



返事を礼儀を大切に

私共はただ踊るといふのではなく、小中学生には返事と礼儀を重視しています。連員数も多いためきちんとした返事、きびきびした行動が必要だからです。また、影の仕事への積極的な協力も必要です。道具調へ衣裳調べなど、当日忘れてはならない物は、いっぱい。

発足当時活躍していた人達も、現在は後続育成のため努力していただいています。このような決まりを守りぬく事こそあのすばらしい踊りやおはやしがあるのだと、連全体が心を一つに阿波踊り当日までの一カ月、共に汗を流しているのです。

連紹介

苔作連

連長 布澤茂寿
 創立 昭和五十一年
 連員数 三十六名
 住所 杉並区高円寺南四—二四—八
 電話 三二四—〇八一四



お囃子とうちわとお色気

私達、苔作連の特徴はお囃子がよく聞こえていることです。そしてそれに合わせて踊っております。

男性はうちわをふり全員が一体となって踊りを揃えています。また女性は腰を安定させながら体全体で調子をとおり、お色気をだすようにしています。

全員踊ることが大好きな人達の集まりで、より上手になろうと努力しております。いざ本番となると気合いが入り皆さんがかわいくらい緊張します。より一層頂点をめざして頑張っております。応援よろしくお願いたします。

忍連

連長 寺田六郎—粕谷孝博
 創立 昭和四十七年
 連員数 約六十名
 住所 杉並区梅里一—七—一四
 電話 三二一—四八四九

個性を生かし、理想を追う

私たち忍連は、新しいものを取り入れ、



連独自のリズム、おどりをつくり上げています。おどり手は自分の個性を生かし、それぞれの理想とするおどりをめざし努力を重ねています。また、おはやしは、おどり手がおどりとやすくという心づかいをしながらも、他の連に負けない「おはやし」という誇りを持ち、迫力のあるリズムをつくり上げる様努力しています。

どうぞ、忍連のおどり、おはやしを見て下さい。あなたもきっと、おどりがたくなるでしょう。

連紹介

写楽連

連長 中村和男—土方文隆
 創立 昭和五十六年八月二十五日
 連員数 六十三名
 住所 杉並区梅里二—二〇—三
 電話 三二一—五九一六



無限に踊り続ける写楽連

十年二十年の踊り経験者十五名の熱意で結成。中村和男をオーナーに役員一丸となって踊りの奥の深さに取り組んでいます。浮世絵師写楽の絵の深さ、神秘的なところに心踊らせている者達です。

おしゃれな若者達とともに、主婦連ともいえるママさん達の多い連です。家事？御主人が代ってくれています。人の心の痛さが判る人間造りにも努力し、仕事に酒に踊りにも家族的な仲間達です。

海外遠征もし、文化交流にも努力しております。まずは、無限に踊り続ける写楽連です。

志留波阿連

連長 奥田勇三・栗田林七・下田剛男
 創立 昭和四十三年五月
 連員数 約九十名
 住所 杉並区高円寺南四一六一
 電話 三二四一二五五五



志留波阿連は美人連

創立当初より、「志留波阿連は美人連」という評判を維持し続けています。まだあどけない小・中学生が、志留波阿連で踊っているとは、妙齡な美人に生まれ変わります。それは、厳しい練習と、一年中練習を続けている精進の賜物なのです。

本場阿波の伝統を踏まえながら、東京の山の手の雰囲気表現しようという努力は完成された踊りと訓練の行き届いたフォーメーション造りによって完成されます。

志留波阿連は永遠に高円寺美人連の名を辱めないよう努力を続けてまいります。



連紹介

新若連

連長 林一・小林一・大石一・名取一・尾股一
 創立 昭和三十九年
 連員数 八十名
 住所 杉並区高円寺南二二二一七
 電話 三二一〇一四四六



礼節、情熱、和に努め、前進

第八回大会(昭和三十九年)は、「新高円寺」が参加に踏み切った年であり、



新若連が創立した大変喜ばしい年でした。当連も、結成以来地元の皆様の暖かい御支援をいただいて、地域ファミリー連として努力をいたして参りました。同時に当初踊ったり、奏でたりしていた子供も、今や成人に育って、技量を磨き特色を生かし、地域同好連的ムードを兼ね備えつつあります。ここ数年は地元高南自治会の祭りっ子を引き連れて、すずめ連(安藤秋雄連長)が合同参加しています。

新若連はこれからも「礼節、情熱、和」と「青少年健全育成と連帯と協調」に努め、前進していきたいと思っております。

天狗連

連長 福島良一・中村和男・福島啓二
 創立 昭和四十年九月一日
 連員数 百名
 住所 杉並区高円寺南三一四五一一五
 齊藤副連長宅
 電話 三二一〇一八七六二



前身の「きらく連」を母体に有志を募り、四十一年八月に二十数名で高円寺初参加し

たのが二十周年を迎えた天狗連のスタートでした。昭和四十六年三月徳島県阿波おどり協会所属「平和連」と姉妹関係を結び、同年八月高円寺において共演が実現し、メイン会場で大優勝旗を手にし、本場にも姉妹連として発表されました。

地元古参の連として常に「広めよう高円寺阿波おどり」を合い言葉に活動を続けています。今後も高円寺阿波おどりの中において、多くの連員を募り、のびのびおどりを目指しております。

連紹介

のびゆく連

連長 鈴木 隆 副連長・伊藤勝正
 創立 昭和三十七年六月一日
 連員数 七十名
 住所 杉並区高円寺南三一五八二二八
 電話 三二一〇一六八



「おどりが大好き人間」養成中

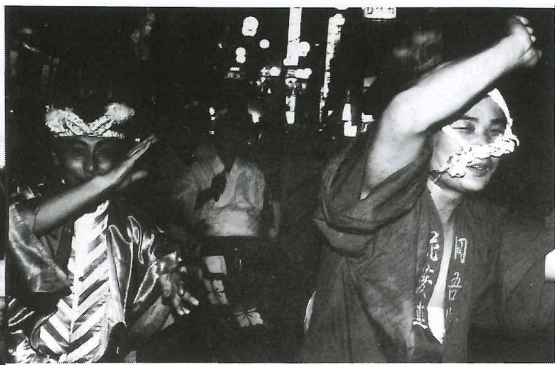
のびゆく連は結成二十五年度の伝統が有り、高円寺阿波おどり協会公認の踊り子養成連です。

連員は、小学校二年生から中学校二年生までの男子と女子のお子様をお預りし、

楽しくのびのびと踊ること、合わせて阿波踊りの基礎を完全に子供の時代に身に付けるようにしています。阿波踊りって見ているよりも踊った方が何百倍も楽しく、踊りながら楽しいんだという事を身を持って子供の頃に味わせ、「おどりが大好き人間」を大勢育てる事を目的にしている連です。高円寺にはおはやしも指導しています。

花菱連

連長 江間忠雄―藤井朝信―中倉健雄
 創立 昭和四十一年八月
 連員数 六十名
 住所 杉並区高円寺北二―二三―一
 電話 三三八―七九五



阿波踊りの職人を目指して
 昭和四十一年に男だけの連としてスタート。高円寺阿波おどりに初めてハッピ姿を



とり入れた連です。
 男くさときつぶの良さは今も変わらぬ伝統で、「男踊りの花菱」とうたわれています。気合いの入った鳴物、大胆な動きのちようちん踊り、おなじみの呼吸の合った軽快なタコ踊り、それに昭和五十四年度から加わった女踊りが花を添えています。
 一人一人が阿波踊りの職人を目指して、鍛えに鍛えています。人と人との間柄がうまくいかない連のシステムは壊れてしまうので、つねに「和」を大切にしています。

連紹介

ひよつとこ連

連長 大野春義―小野沢尚正
 創立 昭和三十九年八月十日
 連員数 六十名
 住所 杉並区高円寺南二―二〇―二〇
 電話 三二一〇三五三



写真中央は故有吉佐和子さん



心行くまで楽しく過そう
 私達の連は、最初バル商店街のお招きにより、新高円寺商店街として有志を集めて約二十名位で発足しました。これから二年程して新若連、ひよつとこ連、菊水連がそれぞれ独立していきました。
 最初は連長を置かず世話人が五名程で連の運営にあたりましたが、四十年頃より、大野連長が就任、四十五年より小野沢連長と続いています。
 踊り子は小中学生を主体に鳴物は大人が分担しています。一年に一回の催しなので踊るものも見るものも心行くまで楽しく過せるよう願っています。

みどり連

連長 深瀬正一―斎木喜久夫
 創立 昭和四十八年七月
 連員数 八十名
 住所 杉並区高円寺南三―四八―一
 電話 三一一―八五八四



調和のとれたチームワーク

昭和四十八年に緑ヶ丘町会を母体にして産声をあげたみどり連は、調和のとれたチームワークの良い連に成長しました。これも先輩連のご指導のお陰と深謝いたします。小学校一年より踊り子を採用している関係で指導が非常にむずかしい現状ですが、こ



の子達が成長するのが楽しみです。男踊りの指導者があるので、女性も男踊りに多く

出ており上達も容易の様です。鳴物はベテラン揃いで、踊りやすい音色を出してくれます。お手伝いは町会婦人会の皆様のご好意で物心両面にわたって後援いただいております。年々充実して来ました。

連紹介

若駒連

連長 田中 弘
 創立 昭和四十九年八月
 連員数 六十五名
 住所 杉並区高円寺北三―二二―一八
 電話 三三〇―〇八七二

若さ溢れる新しい踊り
 高校生、中学生を中心に、他連にまね



することなく独自に新しい踊りに取り組み、各部署のリーダーの下で全員一丸となり、チームワークのとれた連です。若さあふれる踊りと演技を、十年以上も鍛えぬかれた連員によるスケールの大きい踊りで見せします。今年にはチームカラーを一変し新生若駒連として各自連員が一段と気持ちを高めています。新生若駒連を御期待ください。



八千代信金連

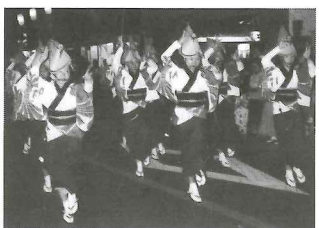
連長 国枝郁夫
創立 昭和三十七年四月一日
連員数 百名
住所 杉並区高円寺南四一七七一六
電話 三二一八三〇一



愛と幸福と発展のために
八千代連が誕生二十五周年になります。当時は踊るのも恥ずかしく、男性のみが参加し、他の連の後について身振り手振りして行きました。当時女性の衣装で困ったので、日活撮影所まで借りに行き、どうにか間に合わせた事が大変懐かしい思い出です。
現在は高円寺支店を巣立った人達が全員集合し、阿波おどりを毎年楽しみにしております。「愛と幸福と発展」をスローガンに、これからも高円寺阿波踊りに協力していきたいと思っております。



連長 木下勝広 渡辺次郎
創立 昭和五十二年一月一日
連員数 五十名
住所 杉並区高円寺南四一七七一六
電話 三二四一六二四一



熱い汗で燃えつきま
英会話学校FIAの生徒達が中心になって連を結成。今年で九年目を迎えました。デイスコ調の外国人の先生、当日参

えふあいえい連



加のユニークな踊り、本場徳島で研修をしてきた熱心な連員達が一致団結して、夏の終りに燃えつきま。他の連と違い元の連員が少ない為、毎年連員の入れ替わりが多いのが難点ですが、「楽しく踊る」を第一に、頑張ってきた。江戸っ子連をはじめ諸先輩連の御指導のたまものです。今年も高円寺の町に熱い汗を流します。

連紹介

杉並税務署連

連長 宮森順治
創立 昭和六十年八月
連員数 二十六名
住所 杉並区成田東四一五一八
電話 三三三一一一三三



得て、昭和六十年に初めてこの伝統あるお祭りに参加できました。賑やかなリズムに乗って、ただひたすら懸命に踊っていただけで、とても周りを見まわす余裕がありませんでした。そんな中にもこの町への愛着が一層募ってくるのを覚えました。
「この社会 あなたの税が生きている」を旗印に、これからも参加を続けたいと思っております。

連長 井上勝義
創立 昭和五十二年六月
連員数 百四十名
住所 杉並区高円寺北四二九一六
電話 三三〇一九〇〇二



オレンジの浴衣さわやかに
「でんわ連」は、高円寺電話局開局十周年を記念して結成され、猛稽古を積んで産声をあげました。以来、踊りの輪の広がりとともに、百四

高円寺でんわ連



十人の連にまで発展し、結成以来培われてきた「和」の伝統に技量にも磨きがかかり、ひときり映えるオレンジの浴衣もさわやかです。名物ヒゲの連長を先頭に足並みもあざやかな女性軍と個性的で統率された若衆連が、息の合ったお囃子にのせて、情緒豊かに豪快に踊る連としてお馴染みになりました。今年、結成十周年、秘策を練って繰り出します。

連紹介

花の木連

連長 鷲尾悦也
創立 昭和五十三年七月
連員数 二百五十名
住所 新宿区歌舞伎町一〇一〇
電話 二〇〇八二八七



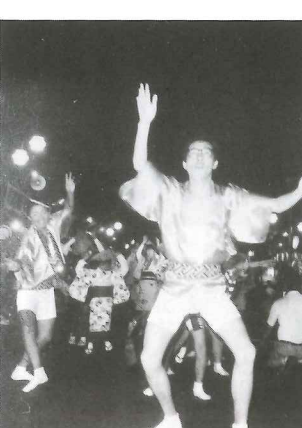
踊りを楽しんでおります。そして、応援にかけてくれた奥さんや子どもたち、あるいは職場の飲み仲間たちをまきこみながら、連員をふやして来ました。昨年は杉並の区会議員も仲間に加わりました。連長は新日鉄の社員、副連長の小川さんは朝日新聞の編集者、総指揮をとる藤田さんは尺八の師匠、と人材も豊富です。滝田ゆうさん描くゆかたは高円寺でもおなじみです。



連紹介

杉並区役所連

連長 歴代区民部長
創立 昭和五十年八月
連員数 六十名
住所 杉並区阿佐谷南一一五一一
電話 三二二二二一一



根っからの祭り好き集団
「地元の祭りに職員も参加しよう」の合言葉のもと、職員有志により結成された杉並区役所連。結成以来毎年連続出場です。年を追う毎に職員の関心も高まり、連員も増えてきました。新人からベテランまで、職種も職場も様々ですが、根っからの祭り好きが集まり、仕事のあとの僅かな時間を利用して練習に励んでいます。踊りもお囃子も、まだ未熟ですが、緑豊かな福祉文化都市「杉並」を目指して地域の皆様とともに頑張っています。



連長 高橋正治
創立 昭和四十二年八月
連員数 八十名
住所 杉並区高円寺北二一七一三
電話 三三七一七五三二



杉の子連

恥ずかしがり屋の子ビッコ連
ちゃんとした連にはまだ早いけど踊りたくてしょうがないという、銀座通り商店街周辺の幼稚園から小学生までのチビッコ連。昭和四十二年に高円寺銀座商店会が正式参加した年に発足した、由緒ある連です。そこの笠とゲタに思い思いのゆかた、恥ずかしがってすぐおだんごみたいになってしまふ、可愛らしさが見どころでカメラのフラッシュと声援を毎年一番浴びています。



びつくり連

連長 林 紀元
創立 昭和四十二年八月
連員数 不定
住所 杉並区高円寺北二一七一三
電話 三三七一七五三二



踊りの原点は自由にある
数ある連の中で唯一の飛び入り自由連。御囃子の音に浮かれ、踊りを見ている内に踊りたくなった人達が、ユカタを着ていれば自由に勝手気ままに踊れる連。上手下手には関係なく、個性豊かな自由な踊り、それはもう踊りの原点。良い汗流してストレス解消、演舞場を回る毎に連員



がどんどん増える、こんな素晴らしい連は他にはないと思っっているのは、連長一人ではないはず。

希望連

連長 山本 廉—浅野輝政
 創立 昭和五十六年三月七日
 連員数 二百名
 住所 杉並区阿佐谷南一—一五一—
 (区職労・佐藤)
 電話 三二二—七〇〇七
 「ヤットセー」の心意気



心身に障害があっても、区内でも生を渡せる住みよいまちを実現することを目的にした「障害者の住みよいかい」が母体で、国際障害者年の一九八一年に発足し、以来出場してきました。

踊りそのものは決して上手とは言えないのですが、障害によるハンディキヤップをもとめず、毎年八月の一夜を、区民、観客の皆さんと一体となって、心から踊りを楽しみながら「ヤットセー」のかけ声を出しています。

あっても、区内でも生を渡せる住みよいまちを実現することを目的にした「障害者の住みよいかい」が母体で、国際障害者年の一九八一年に発足し、以来出場してきました。

連紹介

竜のおとし子連

連長 井上亮一—小原 亮—小松 勲
 創立 昭和五十六年七月一日
 連員数 五十名
 住所 杉並区阿佐谷南一—四七—二〇
 電話 三二二—二二四五



阿波踊りでハンデも克服
 竜は耳で音を聞かず角で把握するところから、全日本ろうあ連盟のシンボルマークでもある「竜のおとし子」

「子」を連の名にしました。耳が聞こえないハンデを克服しての連の結成は初代連長の、杉並区聴覚障害者協会井上会長の努力もさることながら、振興会役員の方々の暖かい指導で毎回楽しく参加させて頂いております。今後とも友好団体でも手話サークル、杉の会と共に、阿波踊りを通じて会員相互の連帯を深め更に地域社会に貢献できるよう努力すべく精進して行きたいものと考えております。



晃妙連

連長 高橋利昌—星 真市—岩崎容三—菅野吉章—根来靖佳—星 高市
 創立 昭和四十五年七月
 連員数 七十名
 住所 杉並区和田二—二四—一七晃妙会
 電話 三八二—二二八五



昭和四十五年、「佼成連」として初参加

しました。賑やかなことが好きな親父さんやおふくろさん、何でも興味を持つ青年など、多彩なメンバーでした。翌年には、「あさがお連」に、五十年から「晃妙連」と改名しました。明るくさわやかに合言葉に、現在は七十人の若手メンバーで構成し、クルクルまわす高張提灯を先頭に、毎年趣向をこらした踊りを披露、日刊スポーツ新聞、朝日新聞、テレビ朝日などから優秀賞、優良賞、都知事賞など受賞しています。



下北沢連

連長 石林正雄
 創立 昭和四十一年
 連員数 四十五名
 住所 世田谷区北沢二—三七—一七
 電話 四六八—二九三三



自由のびのびと踊ろう
 昭和四十一年創立。今年になってお囃子の衣装が統一され新調されました。お囃りは子供を中心として女踊り、男踊りで構成されています。基

本理念として、型にとらわれず「自由のびのびと踊ろう」を掲げています。お囃子は当商店街の青年部を中心に構成されていて、その意気込みは、どこの商店街(連)にも負けないと自負しております。



連紹介

千葉葵連

連長 松本昌三—和泉 寛—和泉厚美
 創立 昭和五十一年六月十二日
 連員数 五十名
 住所 千葉県流山市江戸川台西二丁目
 和泉木材社内
 電話 〇四七—一五二—二二三一
 明るさと美と根性



昭和五十一年夏、約五十名程の阿波踊り愛好者によって結成され、今年で十一年目を迎えます。徳島県から千葉県流山市に移り住んでいる人達を中心に、土地っ子は勿論の事その周辺の市町村を含めてこの連に参加する人達の地域範囲は広く、特にちびっ子が多く男女混成チームです。毎年夏から秋にかけて各地への出演も多く、徳島本場葵連の千葉支部として東京高円寺の葵新連、川崎葵連などと互いの連帯を高め合いながら明るさと美と根性を第一に正調阿波踊りで今も活躍をつづけております。



東日連

連長 勝野國男—鈴木一男
 創立 昭和五十一年五月五日
 連員数 七十名
 住所 港区芝一—六一—〇
 東日印刷株式会社製作部
 電話 四五三—一四五〇



初めは運動会のアトラクション
 昭和五十一年五月五日、会社の運動会のアトラクションにと、当時の勝野部長の提案で、「阿波踊り」を披露。産ぶ声をあげました。手さぐりで始めても限界を感じ、本場「高円寺」に教

えを乞おうと、わざわざ芝金杉の会社まで出向いてもらい、手ほどきを受けました。翌年、「東日連」として高円寺初参加。連帯意識の高揚、内外の人達とのコミュニケーションとマナーの育成を柱に、今日まで頑張って来られたのも、高円寺の各連の方々のご指導ご助力があったればと強く感じます。また五十七年、徳島の殿様連と姉妹連になりました。



天恵連

連長 中川永一郎—鴨川長二—藤原信一
 創立 昭和二十八年
 連員数 六十名
 住所 新宿区神楽坂五—五九
 電話 二六七—二六七四
 東京の阿波おどり連の先駆け
 昭和二十八年深川木場で、徳島出身者が



集まり、故中川さん、故鴨川さんが中心になって、「木場連」として結成されました。以来、三十数年に及ぶ長い伝統を持ち、徳島の観光振興のため、「東京駐在の親善使節」としての役割を果たしています。昭和四十八年の夏日劇において結成二十周年の記念公演を機会に、「天恵連」と改称。故二代目連長鴨川長二氏が、東京における阿波おどりの先駆けとして、苦勞され、定着させた功績にむくいるために「正調阿波おどり」を守り続けています。



天水連

連長 栢森博正
 創立 昭和六十年七月一日
 連員数 三十名
 住所 杉並区高円寺南四—二〇—四
 電話 三一四—一六五三



阿波踊り馬鹿がつく程好きになり
 昭和六十年に産ぶ声を上げたばかりの天水連は、天から降ってくる雨水さえあれば他に何も無くても踊って暮らせるという

連名の由来の通り、馬鹿がつく程の阿波踊り好きが集まって結成された連です。練習は厳しく、阿波踊りは楽しくをモットーに、少ない人数ながらも連員が一致団結し、ダイナミックなお囃子のリズムに乗った、力強い男踊りと華麗な女踊りで、新しい天水連に伝統を築いていくため、連員一同頑張っています。



成増チルド連



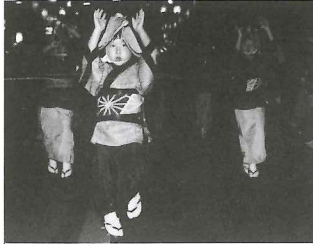
連長 田中智泉子
創立 昭和五十六年
連員数 七十名
住所 板橋区成増三三〇一五
電話 九三〇一四一八八

世界中に阿波おどりの「わ」を
東京板橋に子供ばかりの「成増チルド連」

が誕生してから六年の月日がたちました。高円寺阿波踊りの参加は今年で五回目を数えますが、キャリアも実力も、まだまだ足りない私達です。子供に負けてはおられぬとお母さん達のはやし連をつくりがらばってきました。が、今年からは子供連のほやし連もでき文字通り、親子一体となつての参加です。この様なすばらしいイベントに盛り上げてこられた高円寺の皆様には、心より感謝し、世界中に阿波踊りの「わ」が広がる日を夢見しています。



みたか連



連長 (初代) 大木俊夫 (五代) 吉野清司
創立 昭和四十七年六月一日
連員数 八十五名
住所 三鷹市下連雀三二九一一
電話 〇四二二一四四一八八五七

子供から大人までなごやかな連
昭和四十三年より三鷹の阿波踊りは始まり、昭和五十一年高円寺の連と共にアメリカ建



子供から大人まで調和のとれた、なごやかな連を目指して頑張っています。これからは三鷹の阿波踊りの発展を願ひ、夏の夜の見物の人達に楽しんでいただければ幸いです。

国二百年祭の参加を機会に、高円寺の指導を得てみたか連はスタートしました。三歳から踊った女の子も、今は踊りのリーダーとなり鍛練された踊りを目指しています。鷹を乗せた高張・鷹の刺繍の半纏はみたか連のシンボルで、

板橋けやき連



連長 大山 進 小林二三男
創立 昭和五十一年八月一日
連員数 八十名
住所 板橋区板橋二一六六一一区役所内
電話 九六四一一一内線二二三

高円寺阿波おどりを目指して

今から十年前、板橋の新しいふるさとづくりに、高円寺あすか連のご支援をいただき「板橋阿波おどり大会」が開かれました。わが「けや

き連」は、板橋区役所に勤める阿波おどりの大好きな職員百人余りが集まって連を結成し、その先頭に立って踊りつづけています。けやき連結成の年から、高円寺阿波おどりに参加させて頂き、今年で丁度十年になります。高円寺の阿波おどりを目指す「わがけやき連」の努力目標です。これからも精一杯楽しく踊り抜きます。



連紹介

大月連



連長 川村祐康
創立 昭和五十七年四月
連員数 七十名
住所 山梨県大月市大月一八一三
大月商店街協同組合内大月阿波踊り実行委員会

高円寺阿波おどりに魅せられて
大月市のメインになる祭りを作り上げよう……と「高円寺阿波おどり」を見学し



て以来すっかり魅せられ、翌年にはさっそく大月商店街による「大月連」を結成し、参加いたしました。二年後には大月市において、飛鳥連の御指導のもと七連からなる大月阿波踊りを発足させ、時を同じく始まった「岩殿山かがり火祭り」の中心的催しとして予想外に短期間のうちに市民の中に溶け込んで、本年は十七連による大月阿波踊りが繰り広げられます。高円寺への参加は各連の代表によって構成されております。

大和新橋連



連長 藤岡道雄 石神賢木
創立 昭和五十二年七月
連員数 七十名
住所 神奈川県大和市大和東一八九
電話 〇四六二一六一〇六五六

正統阿波おどりを愛して
大和新橋連は、十年前の頃は連さんの御



指導を受け、地元の名物と商店主達が集まって結成されました。本年大和におきまして、盛大に十周年を迎える事が出来ましたのも、いろは連連長上村さん他高円寺の皆様方の御愛情のお蔭と感謝しております。我が町大和にも十五連(連協会所)が育ち、その中で指導者の立場に置かれていいる現在、連員一同初心に戻って正統阿波おどりを愛し、高円寺に追いつけ追い越せの精神で頑張っています。

助六連

連長 竹内逸夫
創立 昭和五十二年九月一日
連員数 五十名
住所 大田区萩中二一八一六
竹内時計店
電話 七四二二二〇二九

行くぞ糀谷の阿波おどり

「助六」も江戸っ子連さんのご指導をえて今年で九年目になりました。連創立十周年にむかって、がんばっております。糀谷商店街の阿波踊りが高円寺の阿波踊りに一歩でも近づけるようがんばります。高円寺阿波踊りも五十年にむけてがんばって下さい。



片町あすか連



連長 小沢高陽 瀬戸正男 立川公洋
創立 昭和五十六年六月十五日
連員数 六十名
住所 神奈川県伊勢原市田中六三五
電話 〇四六三一九五〇二四二

伊勢原商工まつりを盛り上げて

神奈川県中央部に位置し、東京から五〇キロの距離にあり、総面積の三五%が山林、原野に占められ、北西には大山を頂点

とする、丹沢山塊が連なり東部に平野が広がりが、ぶどう、梨、みかん狩など、季節を彩る数多くの観光客が訪れていきます。片町あすか連はそのふもと、国道二四六号と、大山に入る交差点にあり、毎年十月に行われる商工まつりに片町商店会として、阿波おどりにて参加しています。商店主を始め、地域の子供会、民謡踊りを主体にした連です。



連紹介

国分寺連



連長 中澤 哲
創立 昭和六十年三月一日
連員数 七十名
住所 国分寺市日吉町四一八一三七
富山ビル
電話 〇四二三一二六一〇三二三

陽気な仲間の真面目な問題

いろは連や高円寺銀座商店会の皆様の暖かい応援で、昨年結成されたほやはの連です。国分寺市



西部地区の二十二街商店会、市役所通り商店会、地域各有志を中心に四、五歳の子供から六十余歳の年配者まで一遍で仲間になりました。高円寺の舞台で踊ってみたい、出来れば国分寺でもみんなを呼んで阿波踊りの祭りを実現させたい。陽気な仲間達、それでも復等、少しはまじめな問題を話し合いながら、ゆかいにやっています。

海外遠征

ハワイ



目抜き通りのカラカウア通りで大いに踊り、観衆も大歓迎



踊りのリズムは万国共通、赤ちゃんごきげん



「王様一族」も大喜び



ミス・ハワイ、ミス・サクラに説明する、塚本副会長

東京都の国際文化交流事業による民間親善使節団としてハワイを訪問。ハワイ最大のお祭り「アロハ・ウィーク」に百名が参加。観衆の大歓迎をうけ、高円寺阿波おどりは国際民間交流の役目を見事に果たした。

【昭和57年9月】

中村橋連

連長 連長代行 入子助蔵
創立 昭和五十一年八月
連員数 八十名
住所 練馬区貫井二一五―一二入子方
電話 九九八―五六七三



秋風の中での充足感
江戸庶民気質のお祭り儀式として施させて頂き、はや十年余り、されど地元並びに関係者一同多大な喜びと充足感をもって毎年九月の初頭当商店街は盛大な行事と秋風に包まれております。
昭和五十年、いやはや何とも形容し難い連なるものを結成高円寺の正に芸術の舞たるそれに比し、同じ阿波踊りを名乗るもの正に赤面の至り。しかし当方も鍛錬に鍛錬を重ね、昨年度杉並区長賞を頂くまでに至り、一層の精進を決意してゐる次第です。



アルバイトス連

連長 川浪敏治
創立 昭和六十年五月一日
連員数 約四十名
住所 新宿区本塩町二一
電話 三五六一八二二

型にはまらず
自由奔放
当連は昨年初参加。参加ベテラン連の習熟した踊りの中にあつて、阿波踊りの本質まさにそのまま、自由奔放・型にはまらず



らない踊り、これが当連の最大の特徴である。昨年は観客の皆さんから「この程度なら私も参加できるのでは？」との希望に満ちた声援をいただき、阿波踊り振興への貢献を評価され、見事大塚食品賞をも獲得いたしました。学生援護会が発行する、おなじみアルバイトニュースは今年五月大きく刷新され大好評を得ております。当連も今年は大きく躍進、ご期待下さい。



リクルート連

連長 佐原 光
創立 昭和六十年七月一日
連員数 二十名
住所 中央区銀座八―四―一七
電話 五七五―一一二一

自ら機会を創り出し
全社平均年齢二十五・六歳、男女構成比率五対五。
自ら機会を創り出し機会によって自らを変え



住宅情報の販売部では八月に入ると、毎朝礼の時間「踊らにゃそんそん」のかけ声で仕事も始まります。まだまだキャリア不足の連ではありませんが、オフィスでの強い連帯力と気合とで体あたりの参加です。どうぞよろしくご指導下さい。

高円寺阿波踊り三十周年に寄せて

大月阿波踊り実行委員長 川村祐康
大月市民の夏祭りとして永年親しまれてきた「七夕祭り」が交通事情により年々衰退し、「これに替わる全市を上げての祭りが何かなものか？」と思索に暮れている時、高円寺阿波踊りを知りました。早速見学に行った訳ですが、潜在的に身体で融合するリズムと熱狂的な盛り上がりにつき魅力を感じました。昭和五十六年の事です。翌年には高円寺阿波踊り振興協会の御好意と御指導のもと「大月連」として初参加させていただきました。二年後には同志の中から「た

とえ一連でも良いから大月で阿波踊りを始めよう」との強い意見が出て、大月商店街(協)の理事長として大きな決断を迫られました。そしてゴーサインを出したのです。その年の八月地元「岩殿山かがり火祭り」の初舞台で一躍喝采を浴び、これまでの労苦が報われひとしおの感激でした。「大月阿波踊り」が短期間で予想外の進展をみましたが、高円寺三十年の歴史に育まれた阿波踊りのノウハウを惜みなく御指導下さった振興協会をはじめとする関係各位のご協力の賜と深く感謝しております。「高円寺阿波踊り」が今年三十回を機に、ますますの御隆盛を心より祈念して御祝いの言葉といたします。

アメリカ

アメリカ建国二〇〇年祭の催物として、サンフランシスコ、ロスアンゼルス、ホノルルの三都市から招待をうける。昼はアメリカ式の大パレード、夜は交歓レセプションで、「いろは連」を中心とした約六十名の高円寺阿波おどりが地元民や日系人と大いに触れあう。

【昭和51年3月】



◀◀サンフランシスコ、日本人街で大熱演



サンフランシスコ市庁舎前での大パレード



ホノルルの「サクラ祭り」で踊る、熊谷真実

ミニインドネシアでレオダンスと共演

ミニインドネシアでの記念撮影



ジャカルタのホテル、サリ・パシフィックの招待により、葵新連と徳島県阿波おどり協会が同ホテルのジャパン・ナイトに出演。昼も、市庁舎で民族舞踊レオダンス一行と共演したり、郷土音楽のガメランにのっての大乱舞など、友好文化交流の先駆となる。

【昭和53年9月】

ヨーロッパ

ドイツのハンブルグ市の収穫祭での民俗パレードに一行百名が出演、地元の郷土芸能と堂々共演。途中、パリの「ムーラン・ルージュ」「リド」と並ぶ三大ナイト・シアター「パラリー・ラタン」のディナーショーに共演。

【昭和53年11月】

ハンブルグ市庁舎前での大パレード



収穫祭会場ハンブルガー・ドームで

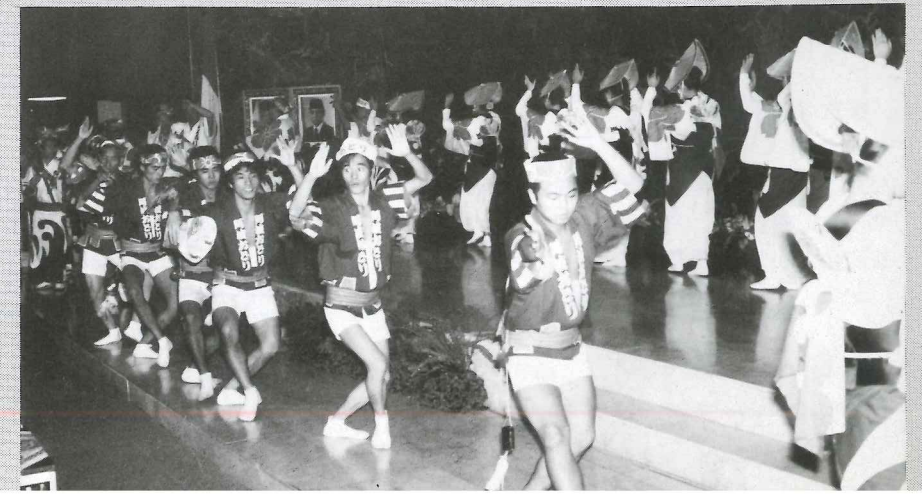


インドネシア

ジャカルタ市庁舎を表敬訪問



ジャカルタ市長(左)と徳島の小寺会長



驚き、そしてニコリ

ベルサイユ宮殿前の記念撮影



パリ「バラリー・ラタン」でのディナーショー



ニース

南フランスのニースで開かれた「フェスティバル・イン・ニース '84」のジャパン・フェスティバルに出演。景勝地を高円寺阿波おどりが大行進。

【昭和59年1月】

ルイ・ヴィトンの店の前で



2^e FESTIVAL CULTUREL JAPONAIS du 6 au 22 Janvier 1984

ニース市カジノ・クラブにて



一斗樽をあけて景気づけ



ホテル・プラザ前での熱演



街をいく

人と人のふれあいのドラマ



上條 恒彦

視聴率一〇〇%の超人気番組が今年も高円寺を舞台に始まるうとしています。僕はここ数年来うなぎの田中家さんの二階でうな重片手?!に大気分、大満足で仲間たち

とワイワイ拝見しています。八月末の残暑の中、今までの暑気を一気に払わんとする「爆発」の醍醐味が何とも嬉しく、からだに響いてきます。「We are one」この言葉がびったり来る踊りの輪を見ている僕ら、見る阿呆も気がつく心の中で一生懸命踊っていて、真正銘の「We are one」。このドラマへ来年は、上條連でかわいらしく??デビューかも?!

セクシーにそしてわいざつに

森本 レオ

ぼくが初めて阿波踊りを見たのは、たぶん10年ほど前のことだと思えます。高円寺駅の南側から青梅街道へむかう高円寺通称「十八メートル」が、たっぷりと当てられたライトに輝き、電柱やガードレールまでがおしゃれに見えました。観客をかきわけてようやく通りの見えるところへ出ると、ちょうど十八メートルの坂下の死角にはいつか踊り手たちが見えず、あの浮きたつようなリズムだけが、遠くの方から潮騒のように響いてきました。そのリズムの高鳴りとともに、坂のくびれから淡桃色の湯文字の鳥追い女たちが、かるく上げた両手をゆらしながらやわらかなステップであらわれた。

彼女たちは、どの舞台で観た女性たちよりも、よほどチャーミングでセクシーでした。きつと生命が沸き立っているからでしょうね。芝居をする時にも一番大切なことなんです。そして、男衆のダイナミックなわいざつさのおもしろいこと。この絶妙のバランスが、あの素晴らしい「南国スペクタクル」を支える秘密なんじゃないかね。近ごろはカメラに凝りだし、いつか美事に撮りたいものだと思っていたのですが、年々人出も増え、喜ばしい反面、芸能人の不慮さで、あまり気楽に見物できないのが少し残念なところなんです。でもめげずにカメラしようと思っただけで、縁があったらぜひ御協力ください。それからさいごに余計ごとですが、三周年を機に、あの十八メートルに粋な名前を贈ってあげてはいかがでしょうか。

そして十八メートルをいっばいに、リズムと踊りが埋めつくしていった。まるでとめどなく舞いおいてくる南の島のフラミンゴの群れのようにでした。あの感激はちょっと忘れられない。

高円寺馬鹿嘶子 昭和三十二年 商盛会ぼんぼんくらぶ作

高円寺馬鹿嘶子

昭和三十二年 商盛会ぼんぼんくらぶ作

- 一、氷川の森に光り輝く 老舗ぞろいの高円寺 エライ奴ちゃエライ奴ちゃ ヨイヨイヨイヨイ 踊る阿呆に見る阿呆 同じ阿呆なら踊らにヤンソソソ 高円寺自慢の馬鹿踊り
- 二、踊りなされや皆様衆よ
- 三、行きつ戻りつ南七丁
- 四、朝な夕なにおいらの街よ 今日も栄える 商盛会 (〃よしこの節〃の替唄)

僕と阿波おどり

大沢誉志幸

高円寺で生まれ、育ち、今も住んでいます。中学生の頃、高円寺中の友達と一緒に、飛鳥連で、踊ったり、鳴物をたいたたりしました。少年時代の楽しい思い出です。今は忙しくて、踊ることもできませんし、見ることも余りありません。でも、高円寺のふるさと行事としての阿波おどりを、いつも心の中で声援しています。

高円寺音頭

昭和三十四年 商盛会青年部作

- 一、ハアー春が来たとき ネオンの街にさ 憶い出すのよ あの街角を ソレ わたしや燃えます恋ごころ

- 二、ハアー夏が来たとき ネオンの街にさ 娘くれよか むこさんところか ソレ 踊る若衆 花ざかり
- 三、ハアー秋が来たとき ネオンの街にさ いとしあなたと 手に手をとって ソレ うれしはずかし 晴姿
- 四、ハアー冬が来たとき ネオンの街にさ あの道 この道 ほのぼのと 雪の降る夜の語り草

お祝いの言葉



藤島 親方 (元大関・貴ノ花)

高円寺阿波おどりが三十年を迎えるとうかがい、杉並で育った一人として、心から

お祝いを申し上げます。私の現役時代に友人の金子さんが天狗連で笛を吹いていましたので、このお祭りに興味を持ちました。毎年夏は地方巡業が続くので、大ダイコにサインするようなことしか出来ませんが、今後ますます発展され、東京の一大名物になった高円寺阿波おどりをゆっくり見物する日を楽しみにしております。

大場通り商和会

早稲田通り

高円寺阿波おどり協賛自治会

- | | |
|-----------|-------------|
| 高円寺南5丁目町会 | 高円寺南1丁目東町会 |
| 高円寺南中央町会 | 高円寺南1丁目西自治会 |
| 高円寺南氷川町会 | 高円寺南2丁目東自治会 |
| 緑ヶ丘協力会 | 高南2南町会 |
| 高円寺北1丁目町会 | 高南2丁目町会 |
| 高円寺北2丁目町会 | 高南自治会 |
| 高円寺北中央自治会 | 新高円寺町会 |
| 高円寺中通り町会 | 梅里1丁目会 |
| 高円寺庚申文化会 | |

高円寺阿波おどり協力団体

- | | |
|-----------|-------------|
| 杉並区役所 | 東京商工会議所杉並支部 |
| 杉並警察署 | 東京電力杉並支社 |
| 杉並消防署 | 杉並交通安全協会 |
| 杉並東西清掃事務所 | 杉並消防団 |
| 国鉄高円寺駅 | 立正佼成会交通部 |
| 地下鉄新高円寺駅 | 杉並防犯協力会 |
| 杉並区商店会連合会 | ボーイスカウト杉並分団 |



外部からの
出演の連の方たちの
着がえ、準備に
お借りしています。



高円寺銀座通り

高円寺銀座商和会
事務所

なにせ大勢な
人出、迷い子、
落とし物に
ご協力
です。



交番

千ピッコ木の子連
の練習のため、
体育館をお借りして
います。

杉並第4
小学校

阿波おどりの
期間中、外部から
出演の各連の着がえの
場所として協力して
いただきます。

●高円寺青年館

こうえんじえき
(ちゅうおうせん)

西商店街

インジ商店街

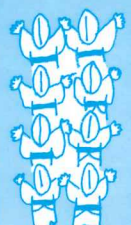
はじめの
10年くらいの間は
ここで練習をしたり、
着付けをしたんです。



長仙寺

1931
商店会
事務所

中央演舞場



高円寺南駅前振興会

阿波おどりは、
この神社の奉納
おどりとして、始まりました。
毎年、前夜祭に地元連
が踊っています。

氷川神社



交番



高円寺!



消防署

高円寺 エアール通り

シルバーセンター商店街

中央通り商店街

環状7号線

大会期間中は、
特別警戒の
万全の構えで
待機しています。



消防署

1977
商店会
事務所

高円寺
レイン
通り

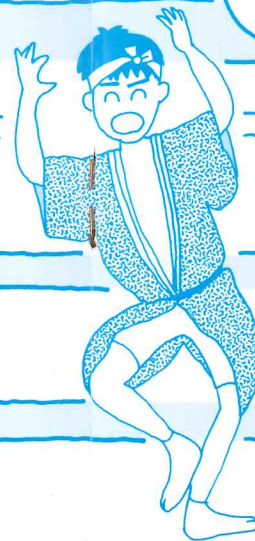


交番

桃園演舞場



南演舞場



青梅街道

地元連は、
8月になると体育館
と校庭をお借りして、
練習に励んでいます。

地名発祥の
ゆかりです。
家光公が
たびたび立ち寄った
とが……。

杉並第8小学校

天祖神社

地下鉄
丸の内線
東高円寺駅

東高円寺銀座
商店会

丸の内線
東高円寺駅

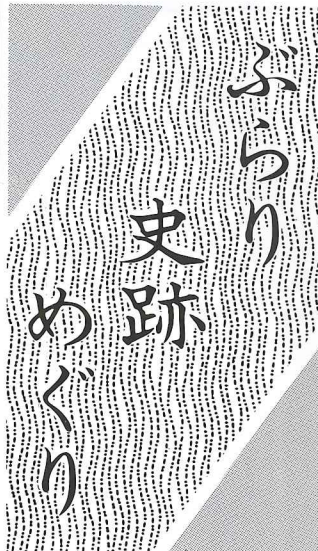
仲町商工会

馬橋商和会

五日市街道

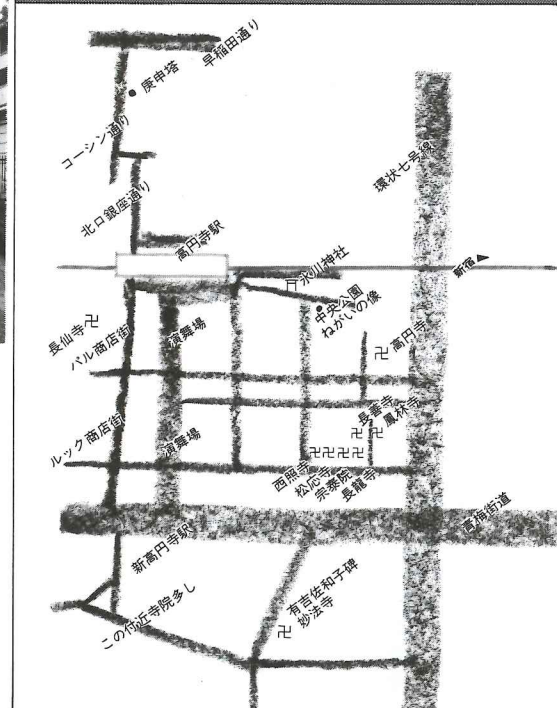
地下鉄 丸の内線 新高円寺駅

高円寺界隈



交通至便の為か、マンション、アパートが林立する高円寺ですが、その一方で古い寺院や神社等、武蔵野の面影を残す史跡、旧跡が数多くあります。このコーナーでは、それらの一部を紹介してみました。昼間、これらの史跡をブラリと訪れ、夜、踊り見物とシヤれるのも一興でしょう。

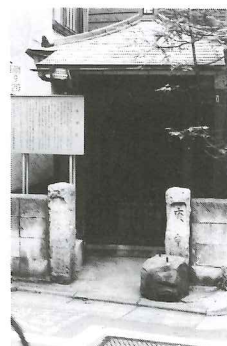
周辺マップ



高円寺

弘治元年(一五五五)開山と伝えられる曹洞宗の名刹です。三代将軍家光公が鷹狩りの折、しばしば立ち寄りられたといわれ、当時、小沢村と呼ばれていた地名を、高円寺村と改めたのも公の命令によるとされています。

庚申塔



北口庚申通り商店街に面するこの庚申塔は正徳六年(一七一六)高円寺村の講中十人が悪病退散、村民安全を願って建立したものです。昭和二十年の空襲で一部が破損しましたが、昭和三十七年、現在の姿に修復され、今も地元の人々の信仰を集めています。

ねがいの像



高円寺南四丁目の中央公園内にあるこの記念像は、昭和五十五年十一月二十日地元老人会の川治温泉旅行で、ホテル火災のため、三十名という多数の方々が出発前に行われたが、このような悲惨な出来事を再び繰り返すまいとのねがいを込めて中央町会と高南長寿会が建立したものです。

長仙寺

日王山阿遮院 宝永元年(一七〇四)創立の真言宗豊山派の寺院。本尊は、新編武蔵風土記稿にも載っている不動明王(室町期)です。高円寺パル商店街に隣接している関係で、阿波おどり草創期には、このお寺の庫裡が、踊り子の仕度部屋になりました。今でもシーズンが近づくと境内をお借りして練習することがあります。



長善寺



永禄元年(一五五八)牛込に開山、大正三年現在地に移転しました。曹洞宗の寺院で、境内に延命地藏尊と愛染明王を祀る愛染堂があって、縁結びを願う人々の信仰を集めています。

鳳林寺



天正十八年台東区谷中に創立、大正十四年に現在地に移転してきました。本堂横の古いお堂には、高さ十五センチほどの木像(神像)が三十体祀られています。三十番神と呼ばれ、神仏習合時代のもので、都内では珍しいものです。なおこの墓地には、二代目花菱連々長故藤井朝信君が眠っています。

氷川神社



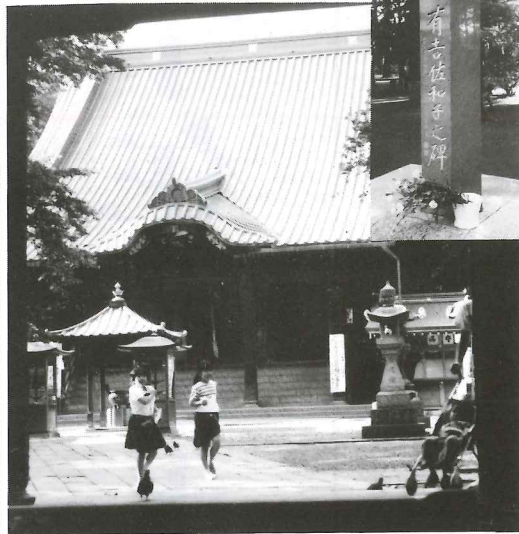
祭神は素戔鳴命(すさのおのみこと)、文治五年(一一八九)建立といわれ、境内末社に気象神社があります。毎年八月二十七、二十八日に例大祭が行われ、高円寺阿波おどりの日に行われます。前夜祭(二十六日)には、奉納踊りが地元連により賑やかに踊られます。

西照寺 松応寺 万寿山 富聚山 西照寺 宗泰院 永昌山 長龍寺

共に曹洞宗の寺院で、通称鎌倉街道に面して四寺が隣接した形で並んでいます。松応寺が浅草から、西照寺が日比谷から、宗泰院と長龍寺が市ヶ谷から、いずれも明治末年から大正初めにかけて、移転してきた旗本寺です。松応寺には佐藤信淵の墓があります。

日王山 妙法寺

元和年間創立の日蓮宗の名刹です。厄除祖師として昔から信仰を集め、落語にも登場、おなじみ「堀の内」の一席は有名です。国の重要文化財、都指定有形文化財等も多く区内随一の寺院です。境内の一隅には、阿波おどりに参加した作家有吉佐和子さんの碑が建っています。



松応寺 明歴二年(一六五六)開山 長龍寺 文祿二年(一五九三)開山

速見領



昭和三十三年生まれの私が、片言ながら言葉話し始めた頃、第一回高円寺阿波おどりが始まりました。僕が役者を目指していた頃、友達に連れられ、知らないうちに葵新連に名を連ね、連員

として速二無二樽を叩いていたのが、もう十数年も前の事です。あの頃の編傘の下の幼い笑顔も、今は立派な母親になっていたり、阿波おどりを通じて高円寺をはじめ、本場徳島出身者や、たくさんの仲間と出会い、数々の思い出を作ることができました。僕も何とか俳優として生活出来る様になり、私と同年代の高円寺阿波おどりを、支えて来た各連長さんや協会役員皆さんのご苦労に感謝して、今年も楽しく爽やかな汗を流します。

近藤 伸明



写真右が近藤氏

皆さん、私はいろは連のお囃子、三味線担当のこんちゃんです。

私も高円寺生まれという事で、この阿波踊りのお囃子というものは子供の頃から敏感で、よく父に連れられては盛り上がりに行っていたものでした。そんな私がいるのは連の門をたたいたのは、日本大学在学中の頃でありまして、とん実のママさんに三味線の千本ノックを受け、練習期間、何と三日間その年の本番に臨んだのであります。あいにく中野四中の頃、あの佐野元

春くんと同級であった私は、たまたまギターをやっていたために覚えるのも早く、自分で語るのも何ですが、「いろは連の天才三味線男」と言われるのも時間の問題か(うそ!!)と思うやいなや、私もザ・パブルガムブラザーズというバンドを組み、LP二枚EP五枚もレコードを出してしまっただけであります。(売れてはいませんが……)

もともと私はソウルミュージック(黒人音楽)を中学ぐらいからずっと聞いていた為か、阿波踊りのお囃子とそれに通じるものを感じ、今、悟ったことは日本のダンスビート、つまりジャズ・ビート・ソウル・ミュージックではないかということです。今、東京の若者は、この徳島の阿波踊りを高円寺で味わい、この感性の音楽を肌で感じ、聞いていたのだと思うのであります。